

# 平成22年度小松島市事務事業評価シート

事業の位置づけ（基本事項）				整理番号	4	-	5	-	6
事務事業名	小集落外壁改修事業				担当課係	住宅課・建築係			
総合計画上の位置付け	大項目	6. 「街が輝く」			記入担当者				
	中項目	快適に暮らせる生活基盤の整備			内線等				
	小項目	3. 社会ニーズに対応した住宅整備			E-mail				
事業の実施主体	市（委託・補助事業含む）				事業区分	経常事業			
事業予算費目	款	8	土木費		項	8 住宅費			
	目	4	改良住宅ストック総合改善事業		事業	1 小集落外壁改修事業			
開始年度	H14		年度	根拠法令・要綱等 住宅地区改良事業等					

## 事務事業の概要（実施内容）

<b>事業の対象</b>	（誰の、何のために事業を実施するのか） 昭和50～52年に建設された、小集落地区改良住宅（鉄筋コンクリート造2階建て、2戸で1棟の住宅）
<b>事業の目的</b> （意図）	（事業実施によってどういう状態にしたいのか） 建設から30年以上経過した本市の小集落地区改良住宅は、外装の老朽化が著しいため、改修工事を行い、住環境及び居住性の改善を図る事を目的とする。
<b>事業の内容</b> （内容・手法等）	（どういった仕事の内容で、どのような手法・手順で実施しているか） 屋上・ベランダの防水の改修及び外壁塗装の吹替え、ベランダ手摺の取替え
<b>事業の背景</b> （経緯等）	（事業開始の背景やこれまでの経緯） 外装の老朽化による雨漏り、手摺の腐食等、建物の耐久性及び安全性の低下は、住環境及び居住性を損なうため、早急に対策を講じる必要がある。また、管理件数が58棟116戸あり平成22年度までに16棟32戸が完了し、年間改修戸数を増加させる必要がある。

## 事務事業の業績・推移（目標・実績）

		指標名		指標の説明				指標化できない成果
		市内の小集落地区改良住宅58棟・116戸		小集落地区改良住宅の管理戸数				
成果指標	単位					将来目標 (年度：平成)	外壁調査及び設計を行っており経費の削減が行われている。	
		H21	H22	H23	H24	116戸 H43		
	目標	4戸	4戸	4戸	4戸			
	実績	0戸	4戸					
	達成度	0.0%	100.0%					

  

活動実績・参考となる指標	指標名		単位	H21	H22	H23	H24	指標の説明
	改修工事の実施戸数		戸	計画 4	実績 4	4	4	
改修工事に係る平均工事費 (1戸当り)		円	計画 5,250,000	実績 5,531,000			(計画)は交付金事業の予定額 (実績)は決算書による	
			計画					
			実績					

## 事務事業に係るコストの業績（目標・実績）

（単位：円）

		21年度決算	22年度決算	23年度決算	22年度予算	
全体コスト（円）	A 直接事業費	0	19,705,214	0	22,674,000	
	財源内訳	財源内訳		9,645,000		
		地方債		9,600,000		
		利用者負担				
		一般財源		460,214		
	B 人件費 ×	0	5,720,000	0		
	職員平均人件費		7,150,000			
従事した割合 人		0.8				
A + B			25,425,214	0		
単位コスト	活動指標の説明		耐震診断・改修実施件数 ( 4 )		備考 平成21年4月1日現在 人口41,778人 平成22年4月1日現在 人口41,507人	
	活動指標 1 単位当たりコスト		6,356,000			
	市民一人あたりのコスト		613			

事業を取り巻く環境

国・県・他団体の動向や環境変化と今後の予測	(社会状況、法改正、規制緩和、周辺の状況等や今後の予測) 平成14年度に「改良住宅等改善事業」として、小集落地区改良住宅の外装改修工事の取組みを開始したが、平成17年度からは「住宅地区改良事業等」と名称を変え、現在事業を継続中である。また、平成24年度よりは、「公営住宅等長寿命化計画」を策定し、既存住宅の維持・改善を図る流れとなってきた。
事業に対する住民の意見	(意識調査・議会質疑等、事業に対する期待・要望・苦情など) 外装の老朽化による雨漏り、手摺の腐食等を改善する本事業は、小集落地区改良住宅の入居者からは早期の実施が望まれている。しかし、小集落地区改良住宅の全戸数が58棟116戸あり、年度毎の実施戸数の増加が入居者からは望まれている。

項目別評価・今後の課題

評価項目	評価結果(該当にチェック)	判断理由・評価コメント (具体的に記入すること)
必要性 (市民ニーズ)	<input type="checkbox"/> 必要性が高い	外装の老朽化による雨漏り、手摺の腐食等、住環境及び安全性が低下しており、改善の必要性は高い。
	<input type="checkbox"/> どちらかといえば必要性がある	
	<input type="checkbox"/> 必要性が低い	
	<input type="checkbox"/> 必要性がない	
妥当性 (市で行わなければならないか)	<input type="checkbox"/> 市が行わないといけない	建設から30年以上が経過し、建物の耐久性及び安全性の低下が認められ、むしろ遅すぎた改修と言える。
	<input type="checkbox"/> どちらかといえば市で実施	
	<input type="checkbox"/> 必然性が低い	
	<input type="checkbox"/> 必然性がない	
効率性 (事業の手法は効率よいが、コスト削減の余地はないか)	<input type="checkbox"/> 効率的である	事業の補助対象の条件として、維持修繕を超えた「グレードアップ」が求められるため、コスト的には割高感がある。
	<input type="checkbox"/> どちらかといえば効率的	
	<input type="checkbox"/> どちらかといえば非効率的	
	<input type="checkbox"/> 非効率的	
緊急性 (他事業に優先し、実施する必要があるか)	<input type="checkbox"/> 緊急性が高い	「妥当性」の理由に同じ
	<input type="checkbox"/> 比較的緊急性がある	
	<input type="checkbox"/> 緊急性が低い	
	<input type="checkbox"/> 緊急性はない	
成果 (目的の達成状況)	<input type="checkbox"/> 成果が上がっている	平成14年度より改修事業を実施しているが、全戸数58棟116戸のうち、平成22年度までに16棟32戸が完了。
	<input type="checkbox"/> どちらかといえば上がっている	
	<input type="checkbox"/> どちらかといえば上がっていない	
	<input type="checkbox"/> 成果は上がっていない	
今後の課題	小集落地区改良住宅の全戸数が116戸あることから、年度毎の計画戸数をもっと多くすること。	

一次評価(評価点は目安とし、総合的な評価をすること)

評価	事務事業の方向性	1 拡 充 す る		80点以上		評価点による判定	判定に至った理由
		2 現状のまま継続する		60~79点			
2		3 改善・効率化し継続		50~59点		73	平成14年度から事業が開始されたが、8年が経過しているが、16棟32戸が完成してから、残る42棟84戸が残っており、早期に改修することが必要である。
		4 見直しの上縮小する		40~49点			
		5 終期設定し終了		30~39点			
		6 休 止		20~29点			
		7 廃 止		19点以下			

改善・効率化・見直しの方向性 一次評価の判定が3・4の時は、必ず記入すること。

【具体的な改善等取組内容(方向性・対象・手段等について記述)】

二次評価(所管担当の一次評価を、総合評価し判定すること)

評価	事務事業の方向性	1 拡 充 す る		判定説明
		2 現状のまま継続する		
2		3 改善・効率化し継続		事業の進捗状況が思わしくないが、国の補助金等を有効に活用し、早期に全戸の改修が完了するよう努力を講じること。
		4 見直しの上縮小する		
		5 終期設定し終了		
		6 休 止		
		7 廃 止		